

参考3 地域公共交通に関する市民意見交換会の実施結果

1) 実施概要

日 時	令和 6 年 7 月 20 日(土)午前 10 時から午前 11 時 30 分まで
場 所	清須市役所 南館 3 階 大会議室
参加人数	6人
内 容	① 講演(塩土圭介(株式会社 日本海コンサルタント)) ② ワークショップ(A、Bの2グループに分かれて実施) ・テーマ 市内の鉄道・バスをみんなが快適に使えるために、どういった施策が必要か？私たちにできることは？ ・手順 1) 自己紹介 2) 清須市の公共交通の現状や利用状況について、情報交換 3) 市内の公共交通を快適に使うために、必要なことや、私たちにできることについて、意見やアイデア出し 4) 出た意見やアイデアの整理 ③ グループごとにワークショップの成果発表 ④ 閉会の言葉(名古屋大学教授 加藤博和)



意見交換会の様子



ワークショップの成果発表の様子



A グループのワークショップの様子



B グループのワークショップの様子

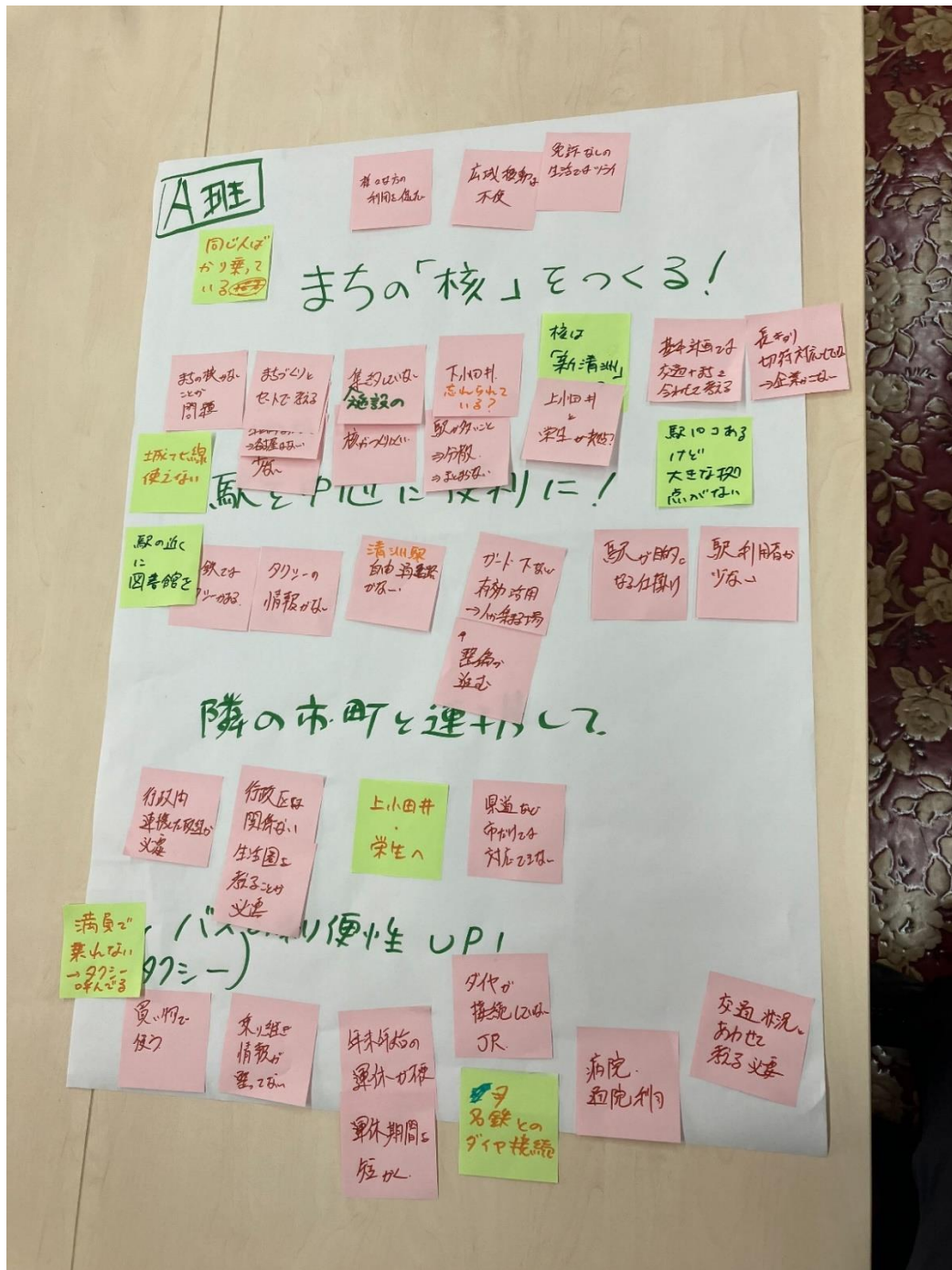
2) 実施結果

A グループ

分類1:まちの「核」をつくる
<ul style="list-style-type: none">■ <u>駅等、施設について</u><ul style="list-style-type: none">・ 駅の利用者が少ない。・ 駅や商業施設はたくさんあるが、分散しており、まとまっていないことで、「核」が作りにくい。・ いずれの施設も小さく、大きな拠点がない。・ 施設がたくさんあることは一見便利に見えるが、それが不便さにつながっている。・ 全ての駅ではなく、少数に絞って集中的に開発するべきである。・ 「核」を作るなら名鉄の新清洲駅が良いのでは。・ 駅が目的になる仕掛けづくりをすべき。・ 駅の近くに図書館を作してほしい。・ ガード下などを有効活用し、人が集まる場所を作してほしい。■ <u>公共交通機関について</u><ul style="list-style-type: none">・ 「核」となる大きな施設が少なく、多くの施設が小さいため、近隣市町(名古屋市など)に比べてコミュニティバスなどが走行しづらい。・ 基本計画では「交通」と「まち」を合わせて考えるべき。・ 様々な方が利用できるようにしてほしい。・ 長距離切符に清須市内の駅が対応しておらず、企業が外から来づらい。
分類2:近隣市町村と連携する
<ul style="list-style-type: none">■ <u>公共交通機関について</u><ul style="list-style-type: none">・ 広域移動がしづらく、上小田井や栄生などの市外拠点に行きやすいようにしてほしい。・ 金山-上小田井の通勤定期は名鉄より市営地下鉄の方が安く、企業は社員に市営地下鉄の定期を指定するため、企業や人が枇杷島にくる機会が失われているのでは。■ <u>具体的施策について</u><ul style="list-style-type: none">・ 行政間で連携した取組が必要である。・ 行政的な区分けは関係なく、生活圏で考えることが必要である。・ 県道など、市だけでは対応できない点について考えてほしい。
分類3:バスやタクシーの利便性を向上させる
<ul style="list-style-type: none">■ <u>バスの利便性について</u><ul style="list-style-type: none">・ 乗継の情報が載っていない。・ JR や名鉄のダイヤと接続してほしい。・ 年末年始の運休が不便なので、運休期間は短くしてほしい。・ 満員で乗れないことが多く、結局タクシーを呼んでいる。・ 通院や買い物のために利用している。■ <u>タクシーの利便性について</u><ul style="list-style-type: none">・ タクシーの情報が無い。

その他

- ・ 免許無しの生活はツライ。
- ・ 下小田井が忘れられているのでは？



Aグループのワークショップまとめ

B グループ

分類1:あしがるバスの利便性の向上

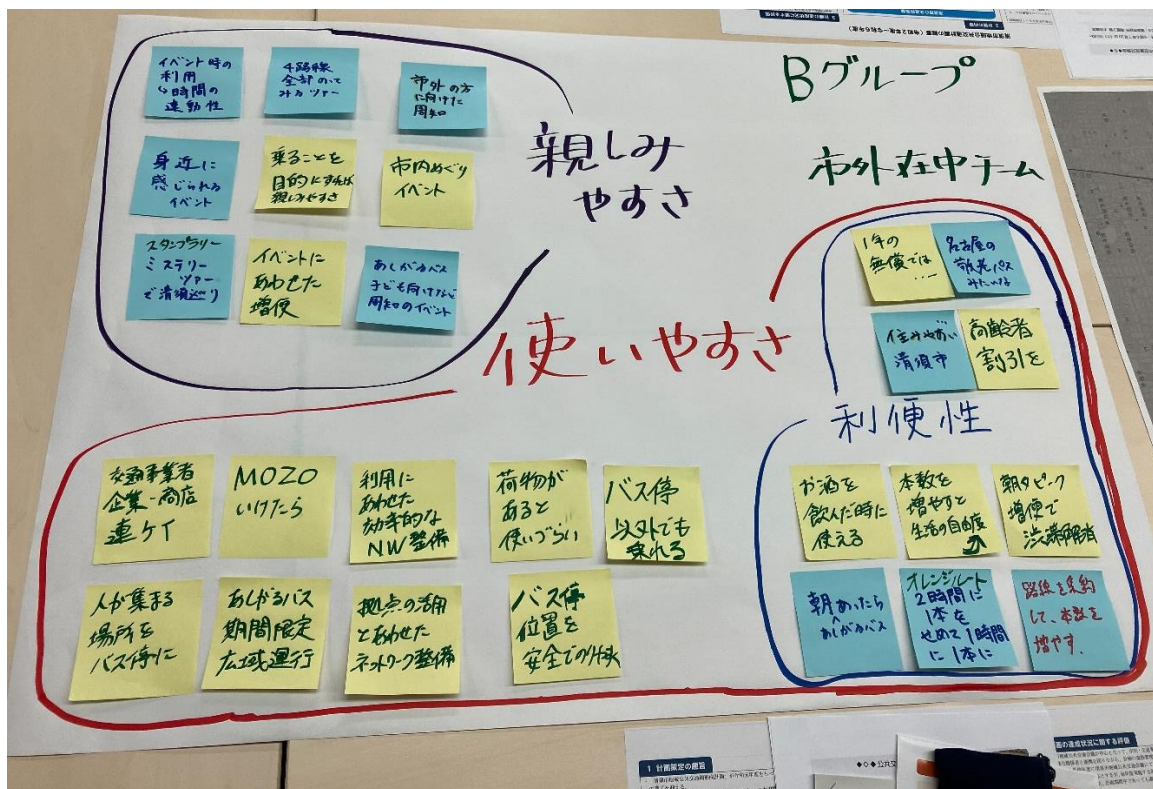
- 高齢者の利用について
 - ・ 往復 200 円では、毎日利用するのは負担が大きいのでは？
 - ・ 名古屋の敬老パスのように、免許返納してから一年経過した後も、高齢者があしがるバスを格安で利用できるような仕組みを作るべき。
- 通勤等での利用について
 - ・ 通勤時間にバスがなく、通勤で利用できない。
 - ・ 朝の通勤ラッシュ時や、夕方の帰宅ラッシュ時の本数を増やすことで、利用者が増え、渋滞の解消にも繋がると思う。
- 普段の生活での利用について
 - ・ お酒を飲んだ時に利用できるよう、夜間の便を設けてほしい。
 - ・ 本数を増やすと生活の自由度が上がると思う。
- その他
 - ・ オレンジルートは現在二時間に一本だが、せめて一時間に一本にしてほしい。
 - ・ あしがるバスの利便性を向上させることで住みやすい清須市のアピールにつながると思う。
 - ・ あしがるバスを乗り継いでどこかへ行くというのは難しく、抵抗があると思う。

分類2:あしがるバスの使いやすさの向上

- バス停について
 - ・ 人が集まる場所をバス停にしてほしい。
 - ・ バス停周辺を安全にし、乗りやすくしてほしい。
 - ・ バス停以外でも乗れるようにしてほしい。
- 清須市外との連携について
 - ・ 名古屋駅や「MOZO ワンダーシティ」にあしがるバスで直接行くことができれば、市外の人からの知名度も上がると思う。
 - ・ 期間限定で広域運行するのはどうか。
- バス路線について
 - ・ 利用に合わせた効率的な路線の整備を行ってほしい。
 - ・ 拠点の活用と合わせた路線の整備を行ってほしい。
- その他
 - ・ 荷物があると利用しづらい。
 - ・ 交通事業者と企業や商店とが連携して取り組んでほしい。

分類3:あしがるバスの親しみやすさの向上

- イベントの実施
 - ・ あしがるバスを活用したスタンプラリーやミステリーツアー、「4 路線全部乗ってみるツアー」などの市内巡りイベントを実施することで、あしがるバスのことも清須市のことも知ってもらえると思う。
 - ・ 子供向けイベントの実施は親しみやすさの向上に貢献すると思う。
- イベント時のダイヤについて
 - ・ 清須市内でのイベント時に、イベントと連動した臨時ダイヤを組むことで、市外の人にも利用してもらえるのでは。
 - ・ イベントに合わせた増便をすると利用が増えると思う。
- その他
 - ・ 乗ることを目的にすれば、親しみやすさは向上すると思う。
 - ・ 「聞いたことはあるが、使ったことは無い」という人も多いと思うので、市外の方などに向けた周知を実施すべき。



Bグループのワークショップまとめ

【加藤副会長の閉会の言葉】

合併当時から清須市の公共交通に携わっていますが、その頃に考えていたものの実現できていなかったことについて積極的な議論がなされており、少し心が痛いところです。

Aグループで議論のあった金山-上小田井の移動手段については、私は名鉄一択であると考えています。ただ、検索では所要時間が短いため名鉄の車両しか表示されないのですが、運賃は確かに地下鉄の方が安いです。地下鉄が270円である一方で、名鉄は330円です。また、通勤定期も名鉄の方が高く設定されています。

「MOZO ワンダーシティ」の話も以前、路線バスで導入できないか挑戦したことがありましたが、様々な事情で出来なかったという過去があります。これも含めて、市外との連携について、清須市は鉄道の方が早い場合が多いため実現が難しいという背景があります。

路線バスについても、清須市中心部に近いエリアにもバス路線を延ばせないか、名古屋市交通局とも一度議論をした方が良くと考えております。

今日の議論を聞き、当時考えはしたものの諦めたことを思い出しました。悔しいので一つでも二つでもチャレンジしたいと思います。

まちの「核」についても合併当時から考えていたのですが、清須市は小さい町が4つ集まってきた、という経緯があります。そのため、集約はこれまでもしてきましたが、昔の名残でまとまらないところがあるのも仕方がないのかなと思っています。10箇所小規模な駅があるのも、集約した方が良いのかもしれませんが、これから減らしていくのは難しいかと思います。4つの旧町と10箇所の小さな駅が集まっているという弱みを強みに変えられるように皆さんにも考えていただきたいです。

ところで名鉄が「EMOTION!」という、地域の良いところを掘り出して、名古屋などで宣伝するキャンペーンを実施しています。清須市は対象となったことはありませんが、現在清須市の地域公共交通会議に名鉄も入っているので、清須市の良いところをピックアップするキャンペーンを打診してみようと思います。キャンペーンをする場合は、来年の7月頃に清須市の良いところを見つけるワークショップをまた実施して、市外の人にアピールできるものを考え、タイミングを合わせてあしがるバスのイベントも実施できたらと思います。

「知らない」と「乗らない」は連動しています。一年後に向けて準備を進めたいと思います。本日はありがとうございました。



加藤先生による閉会の言葉